



5号トンネル近くにお目見えしたC57の動輪＝春日井市内で

春日井市・岐阜県多治見市の旧国鉄中央線の「愛岐トンネル群」に、蒸気機関車(SL)「C57」の動輪一対がお目見えした。自転車のギアなどを使い、ペダルをこぐと回るようになっていた珍しい展示で、二十二日に関係者による除幕式がある。四月下旬ごろに一般公開される。(佐久間博康)

こいで回そううSL動輪

動輪とは機関車の駆動輪のことで、春日井市のNPO法人「愛岐トンネル十三基のうち、春日井側からみて五つ目」の5号トンネル(春日井市玉野町)の多治あま市の個人から譲り受けた。一九四七(昭和二十二年)の製造と見側の出口近くに据え付けた。二・八ト。

和二十二年の製造と見側の出口近くに据え付けた。二・八ト。動輪は、現存するト



愛岐トンネル群 1900(明治33)年の旧国鉄名古屋―多治見間の

開通に伴い完成したが、66(昭和41)年の電化・複線化による廃線で見えなくなった。春日井市のNPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」が昨年6月、3―6号トンネル4基を含む市内の土地を取得し、保全している。4基は2009年に経済産業省から「近代化産業遺産群」に選定された。

4月に一般公開 愛岐トンネル群で展示

歯車が動いてローラーが回り、動輪が回転するようにした。ペダルを六分間こぐと、動輪が一回転する。一般公開では、来場者にもいでもう。中部大(春日井市)と小牧市の企業の協力を得た。

動輪を展示する場合、台座に固定するのが一般的。日本鉄道保存協会顧問の米山淳一さん(左)によると、回転する動輪は、全国でも例のないユニークな展示の仕方という。

実際に旧中央線を走っていたのはD51だが、C57はD51より車輪の直径が大きく、展示数が少ないことから貴重とされる。保存再生委事務局長の村上真善さん(左)は「歴史のある愛岐トンネルにふさわしい貴重な動輪が飾られてうれしい。動輪が回る姿を見て、SLが走っていた当時のことを思い浮かべてもらいたい」と話している。